## 12 月 10 日のメッセージ

聖書：列王記上　22：　6 – 17

# 「主は生きておられる」

2023 年の「現代用語の基礎知識」選 ユーキャン新語・流行語大賞は、「アレ(A.R.E.)」に決まりました。阪神タイガースの日本シリーズ優勝は 38 年ぶりだったので、ある意味順当な選びと言えるでしょう。しかし、流行語は消えゆくのもまた定めです。10 年前、2013 年の流行語大賞を覚えていますか。「今でしょ！」「じぇじぇじぇ」「倍返し」「お・も・て・な・し」。30 周年を記念して 4 つ選ばれたのですが、今では記憶に薄いのではないでしょうか。

一方、大賞に選ばれなくても印象に残る言葉もあります。私にとってそれは、2007 年の「KY」です。教会の担任教師として働いて 2 年目。ことさら、「空気を読んでほしい」、「空気を読まなければ」と思っていたからかもしれません。

聖書の様々な物語と向き合う時、この「空気を読む」ことができていれば、と思うことがあります。イエスがもし、当時の空気を読んでいれば、十字架上で死ぬことはなかったかも、という不信仰な思いを抱かせることさえあります。しかし、それはもちろん「自分さえ良ければ」の象徴であって、イエスが最も嫌われるものでしょう(「イエスは……ペトロを叱って言われた。『サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。』」マルコによる福音書 8:33)。

ましてや、聖書の言葉を、神の言葉を恣意的に解釈することなどあってはなりません(「心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。」ペトロの手紙二 1:20-21)。

ところが、人間の現実はそれとは正反対です。神ではなく人間にこびへつらい、神の言葉を伝えるはずの預言者でさえも神の思いをないがしろにしようとします(「ミカヤを呼びに行った使いの者は、ミカヤにこう言い含めた。『いいですか。預言者たちは口をそろえて、王に幸運を告げています。どうかあなたも、彼らと同じように語り、幸運を告げてください。』」列王記上 22:13)。

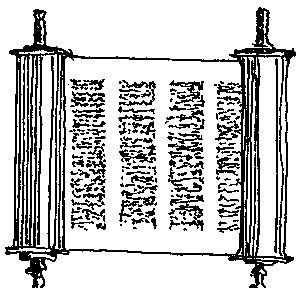
大局的に見れば、その瞬間を取り繕うだけに過ぎないことに血道を上げています。生きている神の言葉ではなく自分の思いを、書かれた言葉に読み込もうとしているのです(「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。」ヨハネによる福音書 5:39)。

今こそ、「KY」であって良いのではないでしょうか。もちろんそれは「自分のわがまま」という意味ではなく、神を、神の言葉をその中心に置くということです。その姿が、端から見れば「KY」に見えるかもしれないということです。

「主は生きておられる。主がわたしに言われる事をわたしは告げる」(列王記上 22:14)

預言者ミカヤは、上手く立ち回ることができたはずの未来を棄てて、神の言葉に従うことを決めました。空気を読まずに、神の言葉を伝えることに全力を注ぎました(「主は仰せを地に遣わされる。御言葉は速やかに走る。羊の毛のような雪を降らせ／灰のような霜をまき散らし／氷塊をパン屑のように投げられる。誰がその冷たさに耐えええよう。御言葉を遣わされれば、それは溶け／息を吹きかけられれば、流れる水となる。」詩編 147:15-18)。

結果、牢獄につながれようとも、神中心の歩みを曲げませんでした(「王はこう言われる。この男を獄につなぎ、わたしが無事に帰って来るまで、わずかな食べ物とわずかな飲み物しか与えるな。」列王記上 22:27)。

時代は刻々と変化しています。それも、どちらかと言えば悪い方に変わっていこうとしています。今こそ、神の言葉が求められています。「神は生きておられる」ことを証しする者が求められています。

その声があなたの耳にも届いていることでしょう。生きた神の言葉であるイエスに従って、私たちも今、立ち上がるのです。